



湧水に満たされた美しいハンノキ林

ハンノキが好む湿地環境を回復するために、ハンノキ林の堆積土を除去し、地下水位が上昇すると湧水が溜まる窪地を掘っています。さらに、園路を流れる雨水が池に直接流れ込むのも防いでいます。

窪地には梅雨や台風の季節に大雨が降ると地下水が湧いてきます。2024年は6月中旬から地下水位が上がり、半年ほど水が溜まった状態が続きました。特に8月末の大雨では窪地が満水になり、透明な地下水がきらめく美しい光景に、来園者もカメラを向けていました。



窪地に湧き出した地下水（2024年9月）

水の溜まった窪地には、サジオモダカ（東京都 RL 絶滅危惧ⅠA類、北多摩）やヒメガマなどの湿生植物が芽生えました。土中に種子が埋まっていたと思われます。水中ではニホンイシガメ（同 絶滅危惧ⅠA類、北多摩）やニホンスッポンといった在来カメの子ガメが休んでいました。長期間湛水した状態が続いたためか、カトリヤンマ（同 絶滅危惧ⅠB類、多摩部）のヤゴが初めて発生し、109 個体もの羽化が確認されました。

カトリヤンマの発生を初確認！



水田、水路の土手などの湿土が露出した場所に産卵し、卵で越冬します。幼虫の成長速度は早く、ふ化後1~5ヶ月で羽化します。谷戸田のほか小さな池にも生息しますが、生息環境の改変や遷移の進行によって減少しています。都内の生息地は丘陵部で、台地部や平野部ではほぼ消失しています。ハンノキ林が冠水していた2023年秋に土の露頭に産卵し卵越冬、2024年6月以降にふ化、7月下旬から羽化したと考えられます。



ニホンイシガメ



サジオモダカ



カトリヤンマ

ハンノキ



東京都レッドリスト
(北多摩)

絶滅危惧
Ⅱ類

ハンノキ林再生の取組とは？

ハンノキは地下水位の高い湿潤な場所を好む落葉樹です。井の頭池周辺でとくに多く分布しているお茶の水池付近のハンノキ林では、公園としての利用が進む中、土砂の堆積や踏み固めによる乾燥化が進んでいました。周辺樹林の高木化による日照不足もあって、ハンノキの若木が育っていませんでした。

2018年の台風で多くの老齢ハンノキが倒れたのを機に、湿地環境を取り戻しながら、多様な生きもののすみかとなるハンノキ林を再生する取組が始まりました。

ハンノキ林の動植物

お茶の水池付近のハンノキ林では、2018年の台風で多くのハンノキが倒れてから、倒木や切り株から次世代のハンノキが成長しています。また台風による倒木や、その後の管理作業によって明るい環境が保たれた結果、種子からの芽生えも好調です。大きなものでは樹高が5mを超えるまでに育ちました。

また、台風によって老木が減り日照が回復したため、明るい草地・湿地を好む植物が生育するようになりました。

イグサ(左) とカサスゲ

窪地内では、湿生植物が確認されるようになりました。



アオモン イトトンボ



コムラサキ

ヒガシニホントカゲ

絶滅危惧Ⅱ類、東京都北多摩



春から秋、トカゲ類がしがら柵で日向ぼっこしているのを見かけます。

ニホンカナヘビ

絶滅危惧Ⅱ類、東京都北多摩

ハンノキ 萌芽株

伐採した倒木の切り株から新しい芽が生え、すくすくと育っています。



作業イベント報告☆

わくわく湧水

ハンノキ林作業の日

ハンノキが好む湿地環境を回復するために、協働イベントを実施しました。2025年1月と2月に計2回行い、のべ60人が参加しました。

イベントでは、ハンノキ林に堆積した土を掘り、地下水位が上昇すると湧水が溜まる窪地を広げました。掘った土はソリに乗せて運び出しました。隣接する草地では、立入防止用に木の枝を杭に編みこんだ「しがら柵」の補修と、草地植生を保全する目的で落ち葉かきも行いました。



湧水が出るの、楽しみ♪

きれいに編めた♪

